東三鷹学園だより

—三鷹市立第一小学校・北野小学校・第六中学校—

令和２年　２月２１日
第５号

東三鷹学園学園長
三鷹市立第一小学校長
仲　光　秀　城

令和２年度に向けて

副学園長　北野小学校　校長　清水　晃

令和元年１２月２日、東三鷹学園コミュニティ・スクール委員会が「地域学校協働活動」推進にかかわる文部科学大臣表彰を受賞しました。この表彰は、東三鷹学園の地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動が他の模範として認められたものです。東三鷹学園コミュニティ・スクール委員会が１０年以上にわたって地域交流活動、学校・保護者・地域が参加する熟議、学園・学校の教育を支援するサポート隊の活動などを行ってきたことが評価されたものです。これまで東三鷹学園の教育活動に携わってくださったコミュニティ・スクール委員の皆様、保護者の方々、地域の方々、教職員の皆様に、あらためて感謝申し上げます。

令和の時代になり、今年２０２０年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピック開催という歴史的な一年になります。また三鷹市制７０周年という節目の年でもあります。平成から令和に変わった今年度、東三鷹学園もリニューアルとなりました。３校の校長が代わり、教職員の異動とともに新しい体制でスタートしました。学園研究も新たなテーマのもとにスタートを切りました。東三鷹学園スタンダードをファイルにして９年間の成長が残せるようにしました。これまで第六中学校では行っていた「みたか地域未来塾」が小学校２校でも順調にスタートしました。コミュニティ・スクール委員会にも推進員２名が配置され、様々なサポートをしてくださっています。また３校それぞれにCS委員や第一地区合同委員会、北野地区委員会など地域の方々のご協力のもとに新たな活動も行うことができました。

今年度に積み重ねてきたことをさらに持続可能で効果的な取り組みにできるようにしていく必要があります。また、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育のさらなる推進、学園・学校を核とした「スクール・コミュニティ」の創造に向けても東三鷹学園に携わる教職員、保護者、地域の方々すべての人財の協働が不可欠です。東三鷹学園のすべての子どもたちのために、これまでの学園の歩みを基盤に、気持ちを新たに全力で取り組んでいきたいと思います。

東三鷹学園スタンダード

東三鷹学園スタンダードの取組を始めて、今年度で５年目となりました。

児童・生徒が自らの目標を決めてチャレンジし、その目標に向かって頑張る子どもたちを保護者・教職員・地域の大人がみんなで支援するための取組です。

今年度からは、このカードを９年間ファイルに保存できるようにすることで、長いスパンで子どもたちの成長や課題を確認したり支援したりできるようになりました。

「みんなで育てよう！自信をもち、イキイキと生きる、東三鷹っ子」を目指し、さらに充実できるような取組にしていきます。（第一小：松島）

学園の活動紹介

★第一小学校・北野小学校　５年生　交流会　（１／２８）

第一小学校と北野小学校との交流会が行いました。

はじめは緊張してなかなか会話ができず、お互いに様子をうかがっていた子どもたちでしたが、インタビューゲームや協力ゲーム、といった楽しい活動を通して徐々に笑顔も増え、自然にコミュニケーションをとる姿が見られました。

お別れの際には、両校の児童が向き合い、元気よくあいさつをすることができました。来年度の自然教室の活動や第六中学校での生活に向けての第一歩になったと思います。

次は、お互い最高学年として、またーつ大きくなった姿で交流する日が楽しみです。（北野小：彦坂）

★ふれあい活動　（１１／２７、２／４）

東三鷹学園では、小・中一貫教育の中で児童・生徒の交流を図る取り組みを数多く実施しています。「ふれあい活動」は、第六中学校の生徒が一小・北野小を訪れ、授業補助をしたり、休み時間に小学校児童と遊んだりして交流するものです。小学生は、中学生の姿を見て憧れやこれからの生活に期待感をもちます。中学生は小学生との触れ合いを通して自己有用感を体感します。

２月４日に行われたふれあい活動では、六中の１年生が小学校を訪問しました。

久しぶりに訪れた小学校にどこか嬉しそうな中学生。話をしっかりと聞く態度、自分から進んで取り組もうとする姿が大変立派でした。自分たちの経験を生かして分かりやすく問題の解き方を教えたり、作業を手伝ったりしていました。また、休み時間には、おにごっこや長縄をして楽しく遊んでいました。

ふれあい活動は、両校の児童にとって、楽しい時間となりました。高学年の児童にとっては、中学生の姿を見ることで、中学校に入学してからの自分を思い描くよい機会となっています。自分達も同じように小学校を訪れ、自分の後輩に関わることを今から楽しみにしている児童もいます。小学生、中学生双方にとって、自分を成長させる機会となっています。

（第六中：中島、第一小：植松）